

資源管理に必要な情報の提供事業 -

漁海況予報関連調査

久野正博・神谷直明・奥村宏征・藤田弘一

目的

本県沿岸の漁況および海況の調査研究を行い、漁海況情報を迅速に漁業関係者に提供すると共に、その情報を解析して漁海況予報を行い、漁業資源の合理的利用と漁業操業の効率化を図り、漁業経営の安定化に資する。

方法

熊野灘 19 測点および伊勢湾 16 測点において、毎月 1 回の海況調査を調査船「あさま」で行った。漁況は主要漁業協同組合から統計資料の入手および電話による聞き取りによって収集した。収集した漁況・海況データは取りまとめて解析し、漁海況速報として毎週 1 回発行した。

結果の概要

詳細については平成 19 年度漁況海況予報関係事業結果報告書（漁海況データ集）で報告したので、以下は概要を記す。なお、漁況については「資源評価調査」で報告した。

1. 黒潮流路

黒潮流路は、平成 19(2007)年 1 月下旬にそれまでの N 型から大きな流路変化があり、2 月下旬には典型的な B 型となった。3 月後半に蛇行北上部が伊豆列島線を越えて、C 型へ移行した。4 月には蛇行南端が一時的に 31°N 以南まで拡大したが、5 月は蛇行北上部の東進と共に蛇行南端は 32°N 付近まで縮小した。6 月に黒潮小蛇行の東進に伴って典型的な C 型が崩れ、6 月下旬には N 型へ移行した。7 月下旬に小規模な B 型となり、8 月にやや蛇行規模を拡大させ、8 月下旬には C 型へ移行した。9 月は比較的安定した C 型で経過したが、10 月以降は小規模な B・C 型を含む N 型傾向で平成 20(2008)年 1 月まで経過した。2 月から 3 月中旬まで安定した N 型が持続し、3 月下旬に小規模 B 型に近い流路となった。

潮岬沖の黒潮は、5 月と 7 月頃に 20 マル程度のやや離岸した状態となったものの、年度を通して概ね接岸した状態が続き、大きく離岸することはなかった。年度末には黒潮小蛇行の東端が潮岬沖に達して、20~30 マル程度のやや離岸した状態となった。

2. 熊野灘の海況

3 月までの記録的な高水温は解消したものの、4 月前半

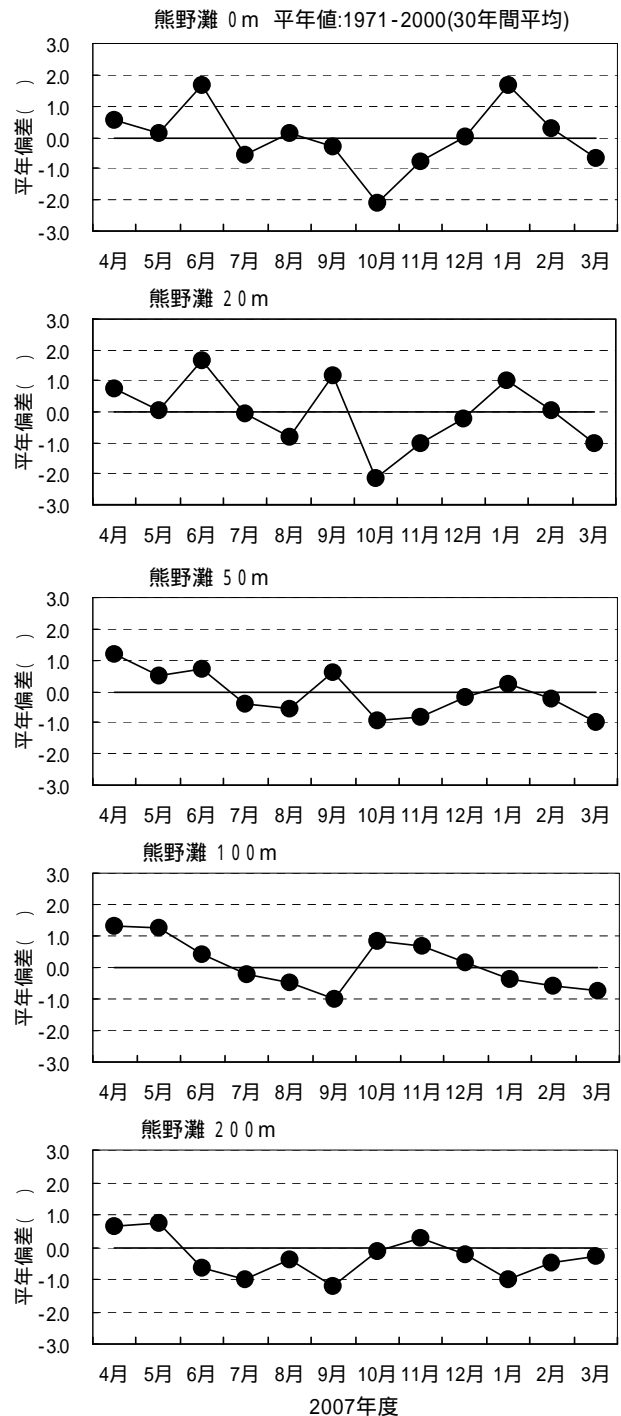


図 1. 熊野灘沿岸定線観測における 17 測点平均水温の 2007 年度 年平均偏差

は南から暖水舌が流入し熊野灘で小暖水渦を形成していたため、平年より高め基調が持続した。4月後半には顕著な暖水流入が見られなくなり、5月は平年並みの水温となった。5月末まで暖水流入の少ない比較的単調な海況が持続していたが、6月上旬に黒潮小蛇行の通過に伴って海況が大きく変化した。6月上旬は黒潮の蛇行北上部が熊野灘に流入し、広範囲で一気に昇温した。黒潮内側反流は徐々に弱まり、6月下旬には表層の高水温は解消した。7月は中旬まで顕著な暖水流入が見られず、低水温傾向であった。7月下旬にB型による暖水流入が見られたものの、8月も下層では平年並み～やや低めで推移した。表面では猛暑の影響で昇温が進み、9月にかけて内湾を中心に高水温が顕著であったが、下層では9月も低水温傾向であった。10月は残暑の影響で降温が遅れ、表面では高め傾向で推移した。下層の低水温は10月にはほぼ解消し、11月はやや高めとなった。表面での高水温傾向は11月中旬頃には解消し、12月には表面～200mでほぼ平年並みとなった。1月および2月は一時的な昇温が見られたものの平年並み～低め基調で経過した。1月8日頃に熊野灘中部の三木崎沿岸へ暖水が強く流入し、熊野灘南部へ波及した。暖水の流入部は東へ移動し、1月中旬には遠州灘に内側反流が形成され、暖水の先端が1月18日頃に志摩半島沿岸に達した。1月末頃にも黒潮北縁から三木崎沿岸への暖水流入が見られ、2月はじめに暖水は熊野灘沿岸の南北に波及した。2月8日頃にも同様に三木崎沿岸へ強い暖水流入が見られた。これらの暖水流入に伴って、熊野灘中部沿岸の表層では顕著な水温上昇が見られたが、昇温は一時的であった。2月後半以降は顕著な暖水流入の見られない状態が続き、3月上旬にかけて熊野灘では低水温化が進んだ。3月13日頃、大王崎南沖の黒潮北縁から熊野灘へ暖水が流入し、三木崎沿岸に達した後に熊野灘の南北へ波及した。

浜島の定地水温は、冬季の記録的な高水温から徐々に平年値に近づき、4月下旬に平年並み～やや高めとなった。5月は平年並み基調で経過し、6月は平年並み～高めで推移した。7月中旬～下旬は台風の通過や梅雨明けが遅れたことから平年より低めで経過したが、8月は猛暑の影響で平年より高めで、9月下旬には平年を2～3も上回った。10月も気温の高い影響で降温が遅れたが、11

月中旬には平年並みとなり、12月上旬は平年並み～やや低めとなった。12月後半は平年並み～やや高めで経過したが、1月以降は平年を下回る日が続き、2月にかけて平年値よりも1程度低めの低水温傾向で経過した。3月上旬には低水温は解消傾向となり、3月中旬は平年よりやや高めとなった。

3. 伊勢湾の海況

伊勢湾の水温は、4月～8月まで平年並みで推移した。6～7月の表面水温は平年値をやや上回ったが、中・底層部では概ね平年並みであった。9月～11月までの浅海定線観測は下旬に実施したため、単純に平年値との比較ができない。観測時期を考慮すれば、9月は平年よりかなり高め、10月も平年よりも高め、11月は平年並み～やや高めであった。12月は月初めに観測を実施し、平年より1前後高めであった。1月・2月は平年並みで推移し、3月は高めとなった。

表層の塩分は、降雨量が少ない状況を反映して、4月から11月下旬まで高め基調で推移した。10m層は6月にやや低め、7月にはやや高めとなったが、それ以外は平年並みであった。また、底層の塩分は平年並みで推移した。

底層における貧酸素水塊(DO 2ppm以下)は、6月から10月末まで確認された。5月上旬から湾中央部での底層溶存酸素濃度の低下がみられ、7月から9月下旬まで湾中央部から三重県よりで広範囲に貧酸素水塊の形成が認められた。9月下旬には三重県中央部の河口域で貧酸素に起因すると思われる魚類の斃死が報告された。貧酸素水塊は10月末まで確認されたが、11月下旬には消滅していた。

白子の定地水温は、4月から6月までは概ね平年並みで推移した。7月中下旬は平年値より低めとなったが、8月中旬以降に高めへと転じ、11月中旬まで平年値より1以上高めの状態が続いた。11月下旬に平年並みとなり、2月中旬は平年より低め、3月中旬以降は平年より高めとなった。

関連報文

三重県(2008):平成19年度漁況海況予報関係事業結果報告書(漁海況データ集)。